

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
6 教図	家庭 049	新生活技術 ともに生きる 暮らしをつくる 代表著作者 櫻井 純子

#### ★編集の基本方針

高校生が家庭生活を見直し、自分らしい生き方の確立や自立した生活を送るための力を身につけることができる教科書をめざしました。特に、これからの社会を生きる若者にとって大切な「福祉」と「環境」の視点を柱にすえることで、次代にふさわしい生活者の育成をめざしました。

#### ★編集上特に留意した点

- ①福祉・環境という柱でまとめた2部構成：人のつながりを中心にした領域（家族、保育、高齢者、福祉）を第1部に、暮らしにかかわる領域（食生活、衣生活、住生活、科学技術、消費生活、環境）を第2部にまとめ、「福祉」「環境」を重視した切り口で学習できるようにしました。
- ②具体性のあるコラムを豊富に掲載：学習テーマに具体性をもたせる「コラム」を数多く掲載しました。特に福祉・環境を具体的に考える力を養うため、福祉的な内容のコラムを「福祉EYE」、環境的な内容のコラムを「環境EYE」として掲載しました。
- ③学習内容を「呼びかけ」型で提示：その単元で「何のために何を学ぶのか」を明確にするために、各節のタイトルの下に、親しみやすい「呼びかけ」型の文章にイラストを添えて学習課題を提示しました。また、学習の導入やまとめとして活用できるように、重要語句を「KEY WORD」として整理しました。
- ④簡潔で正確、わかりやすい文章、見やすい紙面・色づかい：本文をできるだけ簡潔にする、本文と側注、図表の対応を明確にするなど、読みやすさ、わかりやすさに配慮しました。また、目にやさしく見やすい色づかいを心がけ、インデックスで領域を示すなどの工夫もしています。
- ⑤学習の手引きとなる「考えてみよう！」：本文中に書かれた内容を学習するための手引きとして、ポイントごとに「考えてみよう！」という学習指針を配置しました。
- ⑥学習のまとめとなる実践的な課題研究：各章の最後にある「課題研究」では、具体的な学習の手法（やり方）を取り上げるなど、実践的な内容で学習のまとめができるように配慮しました。

#### ★各部・各章の特色（【 】内は学習指導要領との関連）

##### ◆第1部 ともに生きる——人のつながりと福祉

###### 第1章 人の一生と家族【(1)-ア】

コラムなどで高校生の身近な題材を多く取り上げ、学習内容に興味をもてるようにしました。また、自分に置き換えて考えるきっかけとなるよう、同世代の意識調査なども取り上げました。

###### 第2章 子どもとともに【(1)-イ】

子どもを育てる立場からもしっかりと保育を考えられるように、親の視点、役割をはっきりと記述しました。写真やイラストを効果的に使って、子どもの成長の全体像をつかみやすくしました。

### 第3章 高齢者とともに【(1)-ウ】

高齢者についてよく知ること、豊かな高齢期をイメージすることで、高齢者について学習する意義を明確にしたうえで、コラムなどを通して高齢者の現実を理解できるように配慮しました。

### 第4章 人のつながりと福祉【(1)-イ, ウ】

社会福祉、社会保障制度などを整理し、私たちの生活と福祉のかかわりが理解できるように心がけました。日本の福祉との比較材料として、海外の事例も取り上げました。

## ◆第2部 暮らしをつくる——快適な生活と環境

### 第1章 暮らしのなかの「食」【(4)-ア, イ, ウ】

栄養と食品の解説を結びつけ、食品の調理性も加えて具体的・科学的な記述を心がけました。また、食の安全について考える内容を重視し、健康に配慮した食生活を具体的に記述しました。調理実習では提示した献立をアレンジしたり、違いを比較したりできる例などを掲載し、また欄外に「エコクッキング」を掲載して、環境への配慮も視野に入れました。

### 第2章 暮らしのなかの「衣」【(5)-ア, イ, ウ】

被服の材料や手入れの内容について理解しやすいように、図表やイラスト、写真を多数掲載しました。「これからの衣生活と環境」は、環境、安全、ユニバーサルデザインの衣服という視点でまとめました。実習題材は、学校生活を中心に使用機会を想定して、実用性のあるものを選びました。

### 第3章 暮らしのなかの「住」【(6)-ア, イ, ウ, エ】

住まいの機能や快適な住み方、インテリアデザインについてのイメージが明確になるように、写真、図、イラストをふんだんに用いて解説しました。高齢者や障害をもつ人も住みやすい住まい、環境にやさしい住まいのあり方についての記述にも配慮しました。

### 第4章 暮らしのなか「科学技術」【(3)-ア, イ, ウ】

コンピュータの活用など実践的な事例を通して、家庭生活のなかでの機器・科学技術の活用に興味をもてるように配慮しました。

### 第5章 暮らしのなかの「消費」【(2)-ア】

経済のしくみや消費生活の現状について、図やイラストを使って具体的に理解できるようにしました。また、多重債務の怖さや暮らしのなかでの情報の大切さ、消費生活にかかわる法律・制度など、実社会に出たときに重要となる知識を中心にした記述を心がけました。

### 第6章 快適な生活と環境【(2)-イ】

衣・食・住・消費生活の内容を「環境」の視点からまとめる章として、身近な生活と環境問題のかかわりをイラストなどを使って具体的に理解できるようにしました。循環型社会の考え方を強調し、環境と調和したライフスタイルについて興味をもてる記述を心がけました。

### ●人生を計画してみよう【(1)-ア】

「生活技術」で学んだ知識・技術を生かして生活設計を立てられるように配慮しました。

### ●ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動【(7)】

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の実践のために、具体例をわかりやすく紹介しました。